授業科目名： 哲学・倫理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西巻　丈児 担当形態：　単独
実務内容 （実務家教員の場合）			
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会、高等学校　公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		

「学位授与の方針」との関係

DP2.共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる（専門知）
DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる（実践力）

授業のテーマ及び到達目標

哲学とは一体何なのか。どのような問題を扱ってきたのか、それをどのように考えてきたのか、また、どのように考えたらいいのかをみずから考えるという、哲学的な思考法を身につけることができる。
また、倫理学で論じられる主要な問題をとりあげ、その問題がどのように考えられてきたのかを代表的な倫理学者の見解を踏まえながら、倫理学的な諸問題を考察していき、倫理学・道徳の諸問題を自分の身近な問題として考えることができる。

授業の概要

「自分ってなんだろう？」「よく生きるためにはどうすればよいだろう？」、結局のところ「人間とはなんだろう？」。あなたもこれらの事柄を少なからず考えたことがあるのではないだろうか。日々の暮らしの中に、自分自身の生き方を考える様々なヒントが隠れている。この授業では「知ること」、「実践すること」を中心にしてそれぞれの哲学者・倫理学者たちが歩んできた思索の道をたどり、哲学的・倫理学的な諸問題を考えていく。

授業計画

第１回：哲学的な問いの次元（１）　－日常生活のどこにでもある哲学の諸問題－
第２回：哲学的な問いの次元（２）　－＜私＞は何を知ることができるのか－
第３回：客観とは何か　－ありのままの姿とは－
第４回：存在の追求（１）　－客観と実体という考え方について－
第５回：存在の追求（２）　－実体という考え方について－
第６回：存在の追求（３）　－実体を問題にせざるをえない人間－
第７回：実体から主観へ　－根拠の根拠としての主観１－
第８回：主観とは何か　－根拠の根拠としての主観２－
第９回：意識とは何か　－根拠の根拠としての主観３－
第１０回：存在とは何か　－根拠の根拠としての主観４－
第１１回：哲学的な問いの次元（３）　－＜私＞は何をなすべきなのか－
第１２回：自由とは何か　－自由の諸相について－
第１３回：自由の諸相（１）　－意志の自由について－
第１４回：自由の諸相（２）　－社会的自由について－
第１５回：まとめ
科目修得試験

スクーリングでの学修

スクーリングではすべての内容について包括的に取り上げる。

テキスト

伊藤邦武（2012）『物語　哲学の歴史 － 自分と世界を考えるために』中公新書

参考書・参考資料等

熊野純彦（2006）『西洋哲学史－古代から中世へ』岩波新書
熊野純彦（2006）『西洋哲学史－近代から現代へ』岩波新書
樫山欽四郎（1964）『哲学概説』創文社

学生に対する評価

スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）